

# 市民のウェルビーイングにつながる 京都のまちの要素の分析について

京都市 総合企画局市長公室政策企画調整担当

# はじめに

短期的に感じる個人の感情である幸せ(Happiness)に対して、「**ウェルビーイング**」は、生きがいや人生の意義など将来にわたる**継続的な幸せ**を含み、また、家族や友達、住んでいる地域など、**自分を取り巻く環境**が良い状態であることを表しています。

京都市では、分野横断のアクションプランである新京都戦略において、すべての人に「居場所」と「出番」があり、誰もが幸せを感じ、互いにつながり、支え合い、生きがいを持って活躍できる「**ウェルビーイングなまち**」を目指すことを、基本的な姿勢に掲げています。

今回実施した**調査・分析**は、「ウェルビーイングなまち」の実現に向けて、市民のウェルビーイングにつながる京都のまちの要素を明らかにするため、京都大学(人と社会の未来研究院)と京都市との共同研究に取り組んだものです。

## 目次

- 1 どのような調査・分析をしたの？
- 2 京都市民はどのくらい幸せ？  
どのくらい住み続けたいと思っている？
- 3 「自分は京都人だ！」と思う気持ちが、  
幸せや住み続けたい気持ちに影響する！？
- 4 「京都人」だと思える気持ちが、幸せや  
住み続けたい気持ちにどうつながる？
- 5 京都大学から京都市への提案

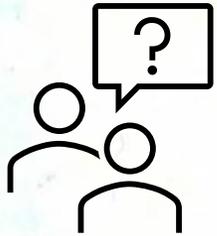
# 1 どのような調査・分析をしたの？

京都市民のウェルビーイングの状況と、ウェルビーイングにつながる京都のまちの要素を明らかにすることを目的に、市民を対象にしたアンケート調査を行いました。  
そして、その結果をもとにウェルビーイングに関する分析を行いました。

# どのような調査をしたの？

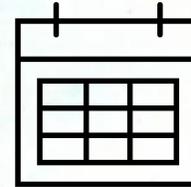
## 誰に聞いたの？

- ・京都市に住む約2,000人の方に聞きました。
- ・年齢やお住まいの地域の割合は実際の京都市の人口比率を参考にしています。



## いつ調査したの？

2025年8月1日から  
2025年9月1日まで



## 何を聞いたの？

- ・年齢や出身など個人の属性について:14問
- ・幸せ、心身の健康など、ウェルビーイングに関連する個人の状況や、住み続けたい気持ち、京都をオススメしたい気持ちなどについて:9問
- ・まちの魅力、人との関わりなどまちの要素について:61問
- ・自分のことを京都人だと思うか:1問



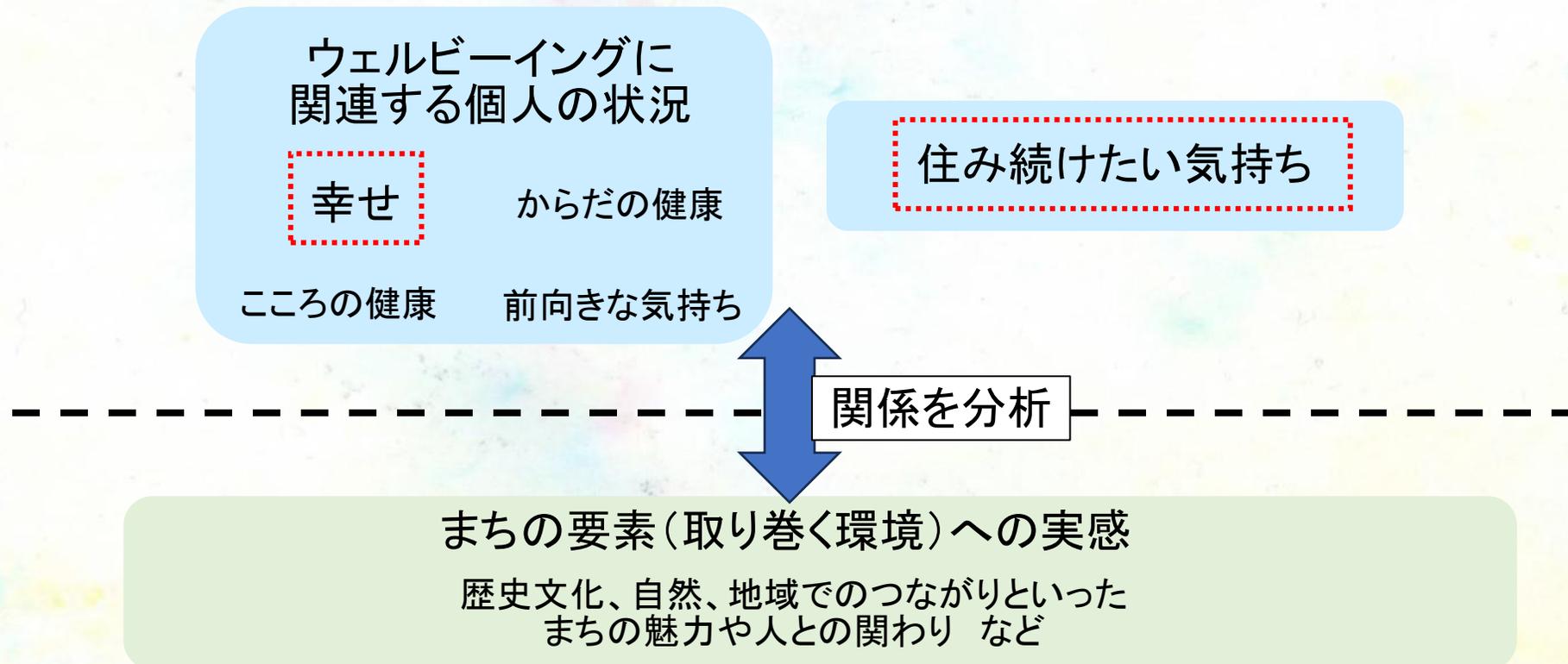
## 誰が調査したの？

京都市が京都大学の先生たちと一緒に調査内容を考え、アンケート調査を実施しました。



# どのような分析をしたの？

ウェルビーイングに関連する個人の状況や、住みたい気持ちなどを調査したうえで、幸せで自分を取り巻く環境が良い状態であれば、ずっと京都に住みたいと思っているのではないか、そうした視点から、幸福度(幸せ)と、定住意向(住みたい気持ち)に着目して、まちの魅力、人との関わりなどのまちの要素との関係を分析しました。

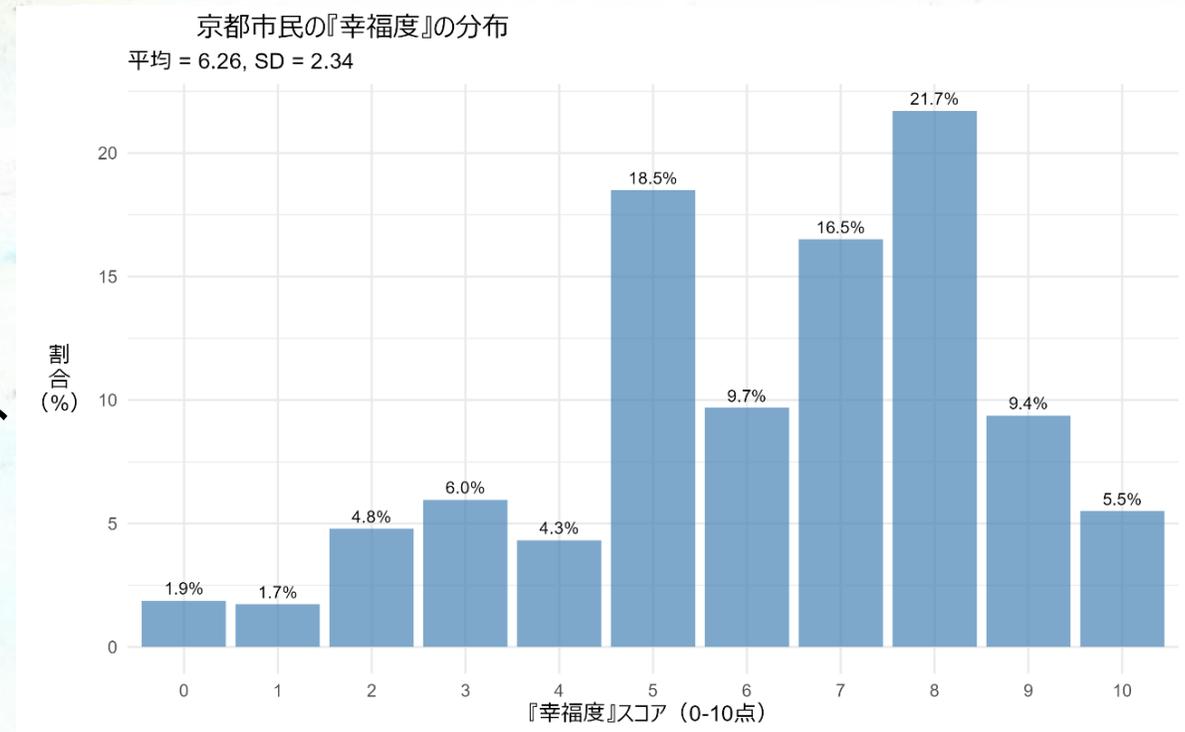


## 2 京都市民はどのくらい幸せ？ どのくらい住み続けたいと 思っている？

「幸福度」と「定住意向」に着目して分析を行った結果、次のようなことが分かりました。

# 京都市民の幸福度は比較的幸せな層と 中程度の層の2つの山がある！

- 京都市民の幸福度は、10点満点中 平均 6.26点でした。これは、日本全体の調査（デジタル庁の全国調査）とほぼ同じくらいの点数です。
- 傾向として、「比較的幸せ」（7～9点）な層と、「中程度」（5～6点くらい）の層の2つの山があることが分かりました。



# 何が幸せを大きく左右するの？

市民の「幸せ」につながる要因を分析した結果、先行研究でも言われているような「経済状況の満足度」に加え、「住みやすさ」や「居心地の良さ」の要素が影響していることが分かりました。

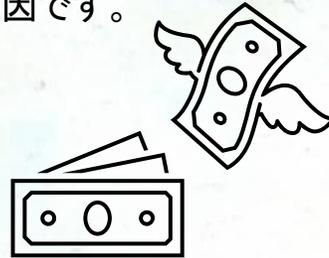
## 「住みやすさ」

自分の家が快適で安全だったり、公共交通機関が利用しやすかったり、道が歩きやすかったり、災害への備えがしっかりしているといった、生活環境や周りの住環境が整っていると幸せを感じやすいです。



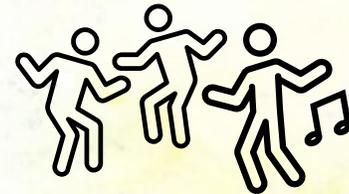
## 「経済状況の満足度」

お金の心配が少ないと幸せを感じやすい、というのは個人の幸せを左右する大きな要因です。



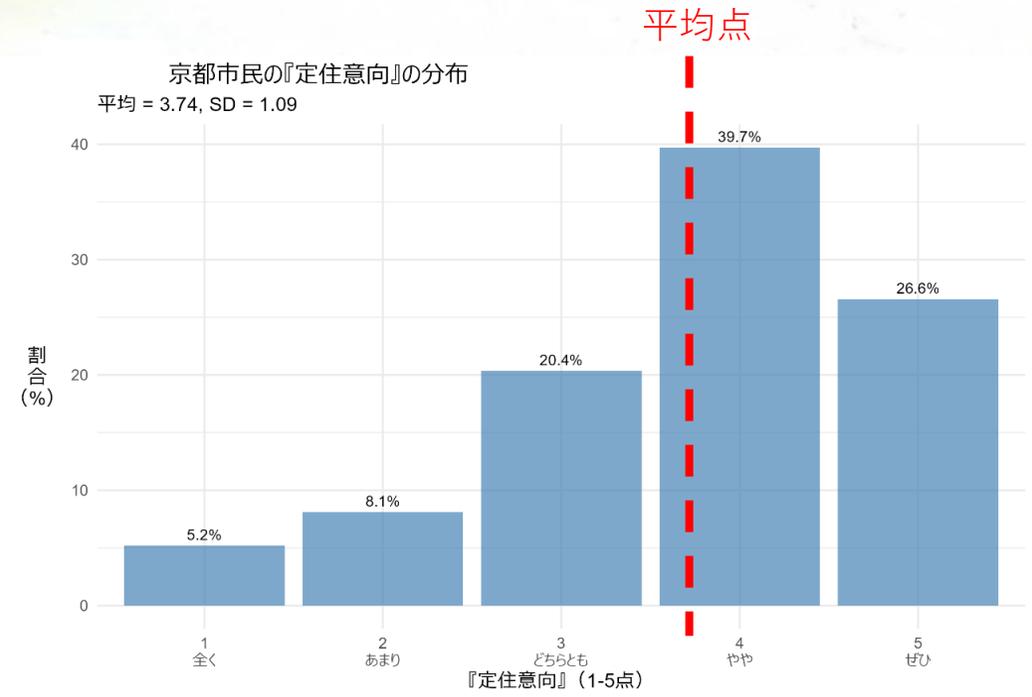
## 「居心地の良さ」

自分が自分らしくいられる居心地の良い場所があったり、困った時に助けてくれる人がいたり、地域の人とのつながりがあったりすると、幸せを感じやすいです。



# 多くの人が「住み続けたい」と思っている！

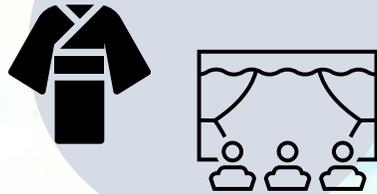
- 「京都に住み続けたい」という気持ち（定住意向）は、5点満点中 平均3.74点で、多くの人が京都のまちに「住み続けたい」と思っていました。



# 何が「住み続けたい」気持ちにつながるの？

「住み続けたい」という気持ちには、京都のまちの魅力や地域でのつながりなど、次のような要素が影響していることが分かりました。

歴史や文化への誇り



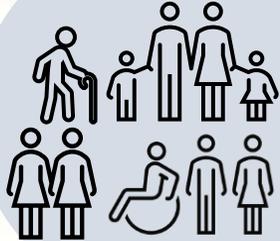
多様な考え方を  
受け入れる気持ち



景観への誇り



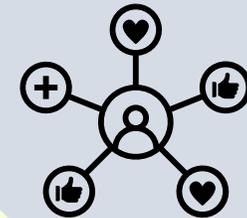
助け合える環境



まちづくりへ  
協力する気持ち



まちの安全・安心



### 3 「自分は京都人だ！」と思う気持ち が、 幸せや住み続けたい気持ちに 影響する！？

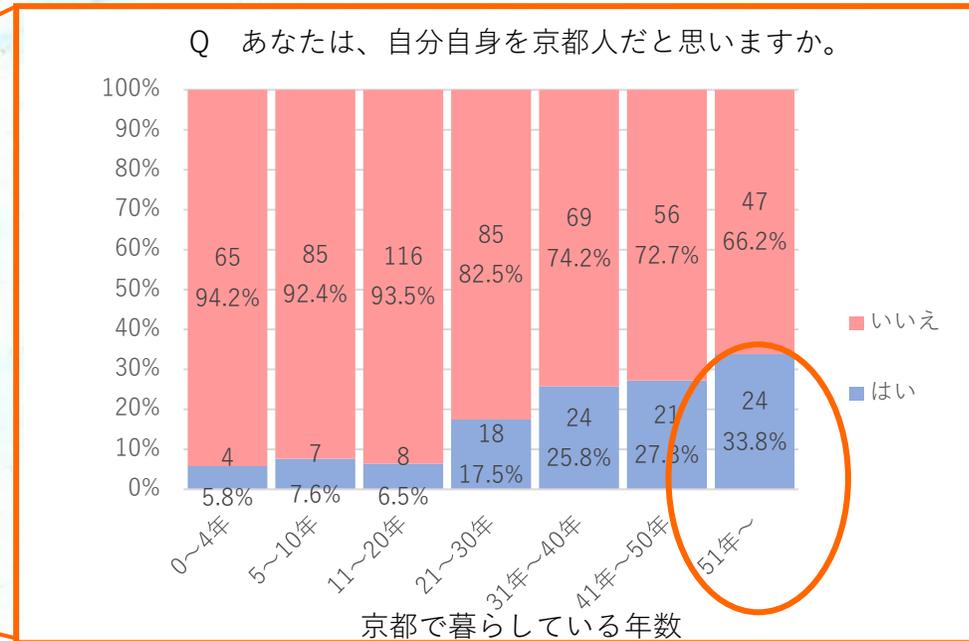
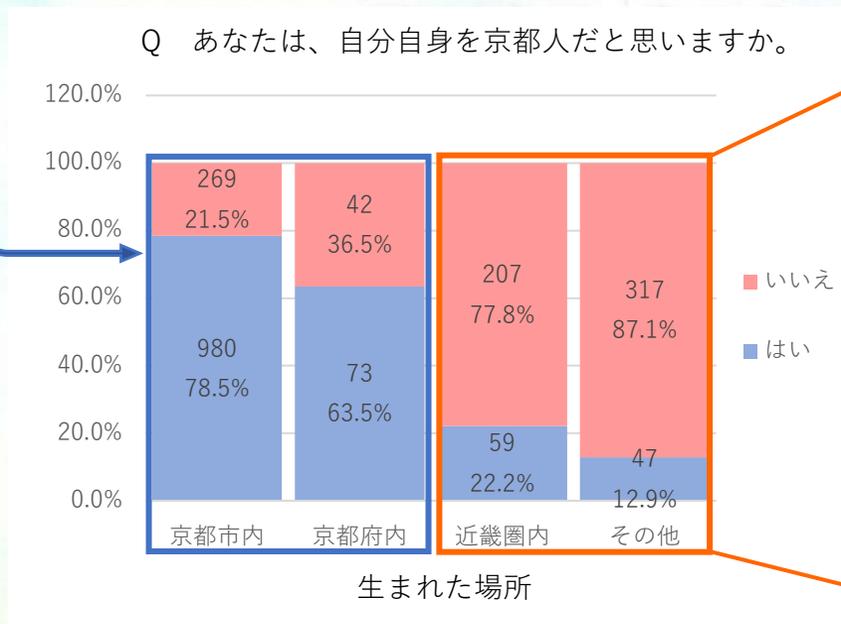
この調査では、「自分自身を京都人だと思うか(京都人認識)」という質問もしました。

その結果、回答者の**約6割**の方が「はい(京都人だと思う)」と回答しています。

# 「京都人」だと思える気持ちはどこで決まる？

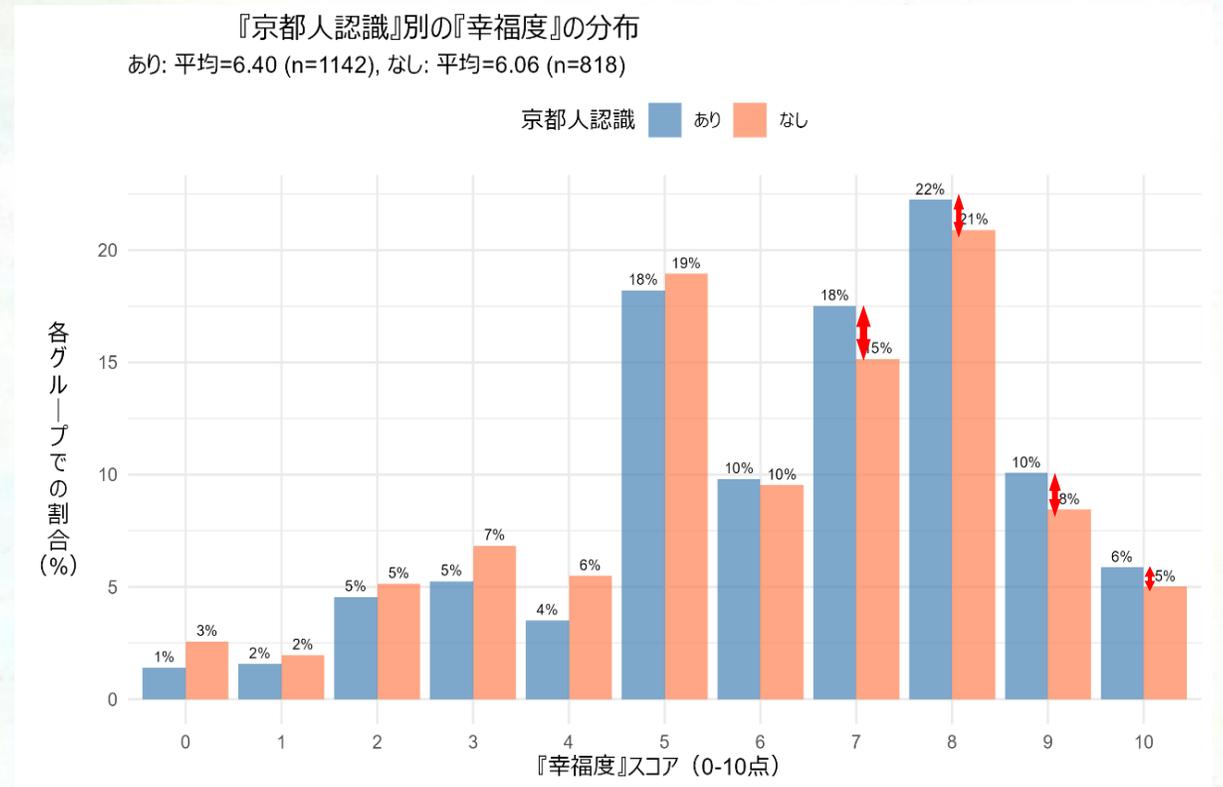
自分を京都人だと思えるかどうかは、「京都に長く住む」ことよりも、「京都で生まれたかどうか」が影響していました。

京都で生まれた人は約8割が「京都人」だと思っていますが、京都以外の場所で生まれた人は、例えば、51年以上京都で暮らしている人でも、「京都人」だと思える割合は4割を下回っています。



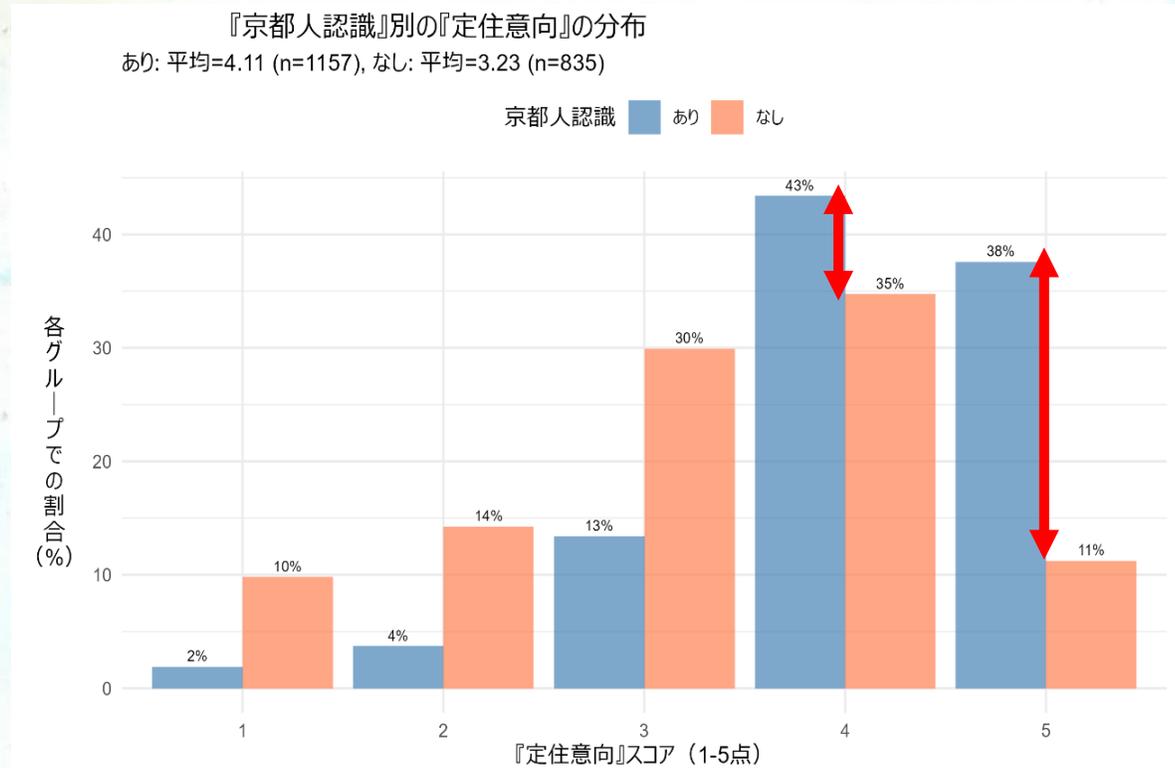
# 「京都人」だと思っている人の方が幸せ？

- 「京都人」だと思っている人の幸福度は平均6.40点、思っていない人は6.06点でした。  
その差は小さいですが、確かに違いがあります。



# 「京都人」だと思っている人ほど、 もっと「住み続けたい」？

- 「京都人」だと思っている人は平均4.11点、思っていない人は3.23点と、「住み続けたい」という気持ちには大きな差がありました。
- 「京都人」だと思っている人の8割以上が「ぜひ住み続けたい」「やや住み続けたい」と思っていたが、そうでない人は「やや住み続けたい」「どちらとも言えない」という人が多かったです。

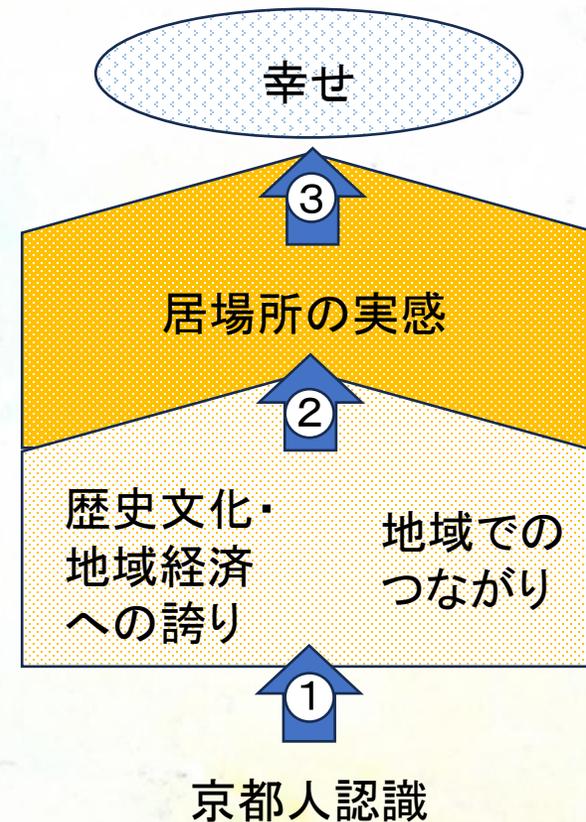


## 4 「京都人」だと思ふ気持ちが、 幸せや住み続けたい気持ちに どうつながる？

では、どうして「自分は京都人」だと思ふ人の方が、幸せや住み続けたい気持ちが大きいのか。  
詳しく調べた結果、次のような関係があることが分かりました。

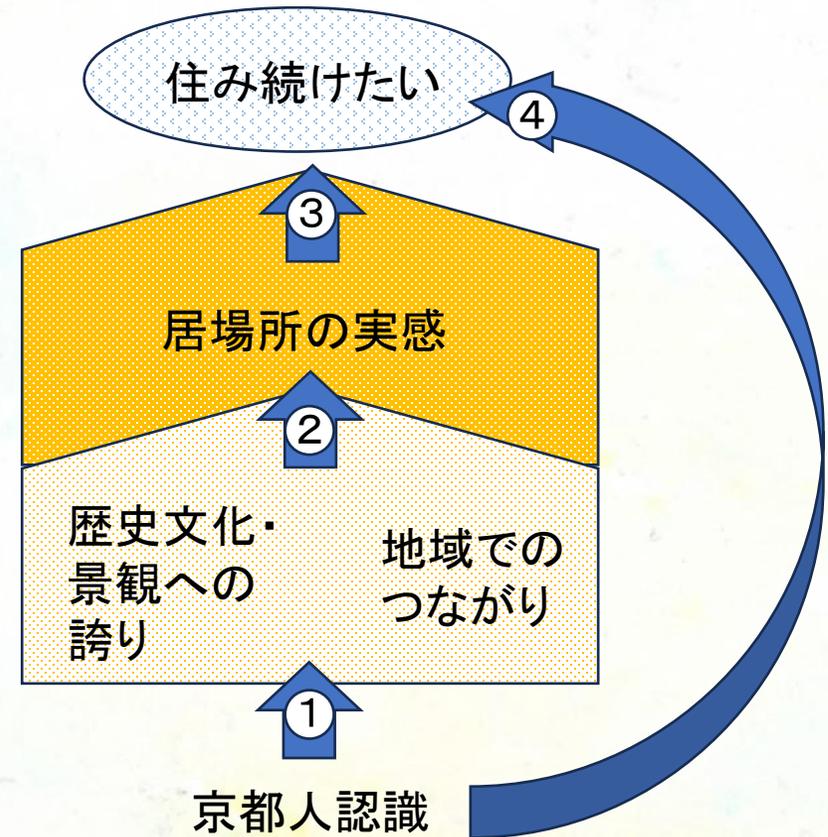
# 「幸せ」につながる道筋

- ① 「京都人」だと思っている人は、「地域でのつながり」と「歴史文化・地域経済への誇り」が高い傾向があります。
- ② これらの気持ちが、「自分らしくいられる居心地の良い場所がある」という気持ち（居場所の実感）につながります。
- ③ そして、この「居場所の実感」が、幸せにつながっているのです。



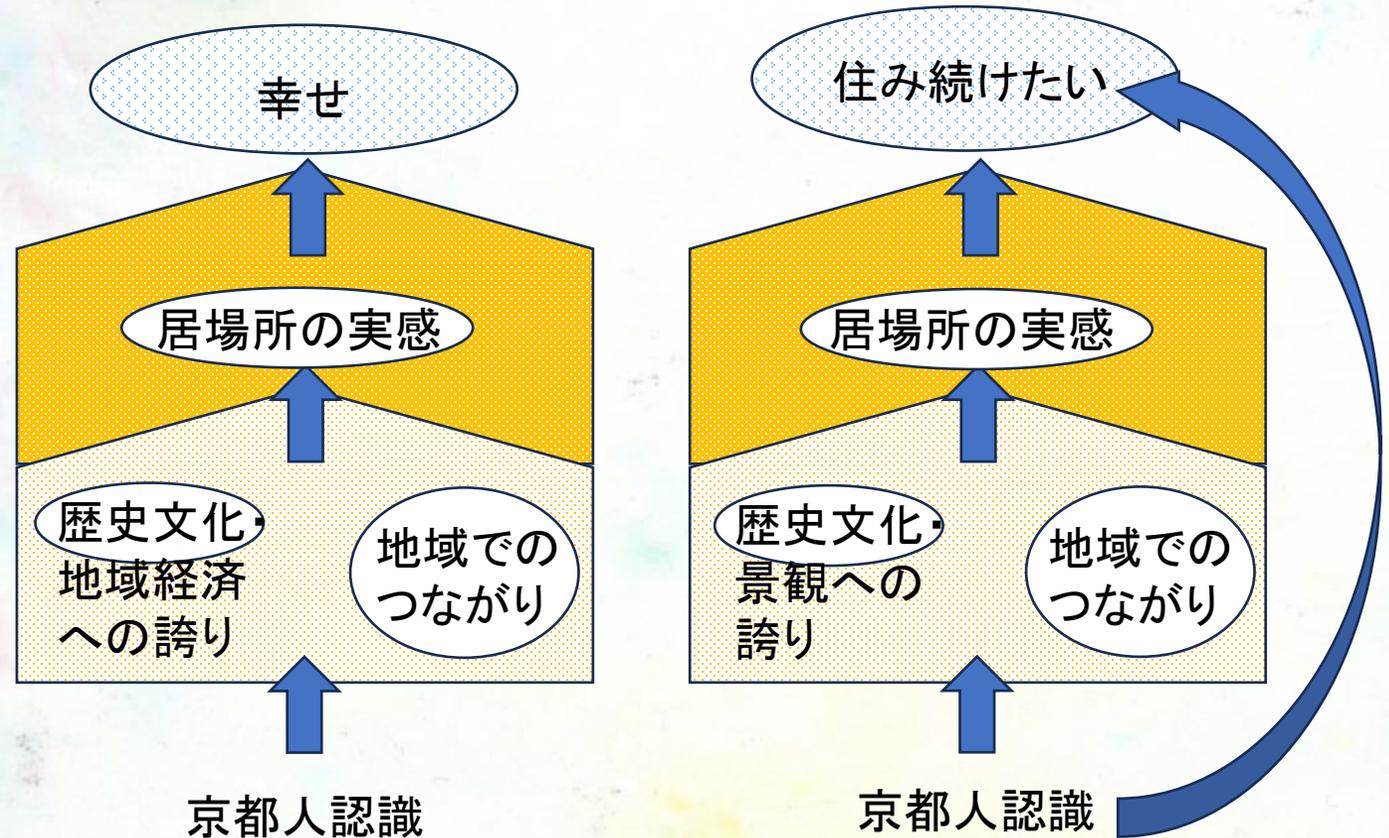
# 「住み続けたい気持ち」につながる道筋

- ① 「京都人」だと思っている人は、「地域でのつながり」と「歴史文化・景観への誇り」が高い傾向があります。
- ② これらの気持ちが、「自分らしくいられる居心地の良い場所がある」という気持ち(居場所の実感)につながります。
- ③ そして、この「居場所の実感」が、「住み続けたい」という気持ちにつながっています。
- ④ さらに、「自分は京都人だ！」という気持ちそのものが、直接的に「京都に住み続けたい」という気持ちにつながることも分かりました。



# 共通する道筋

先ほどの図からも分かるように、「幸せ」や「住み続けたい気持ち」につながる要素は、「歴史文化への誇り」、「地域でのつながり」、「居場所の実感」など共通していることが分かりました。



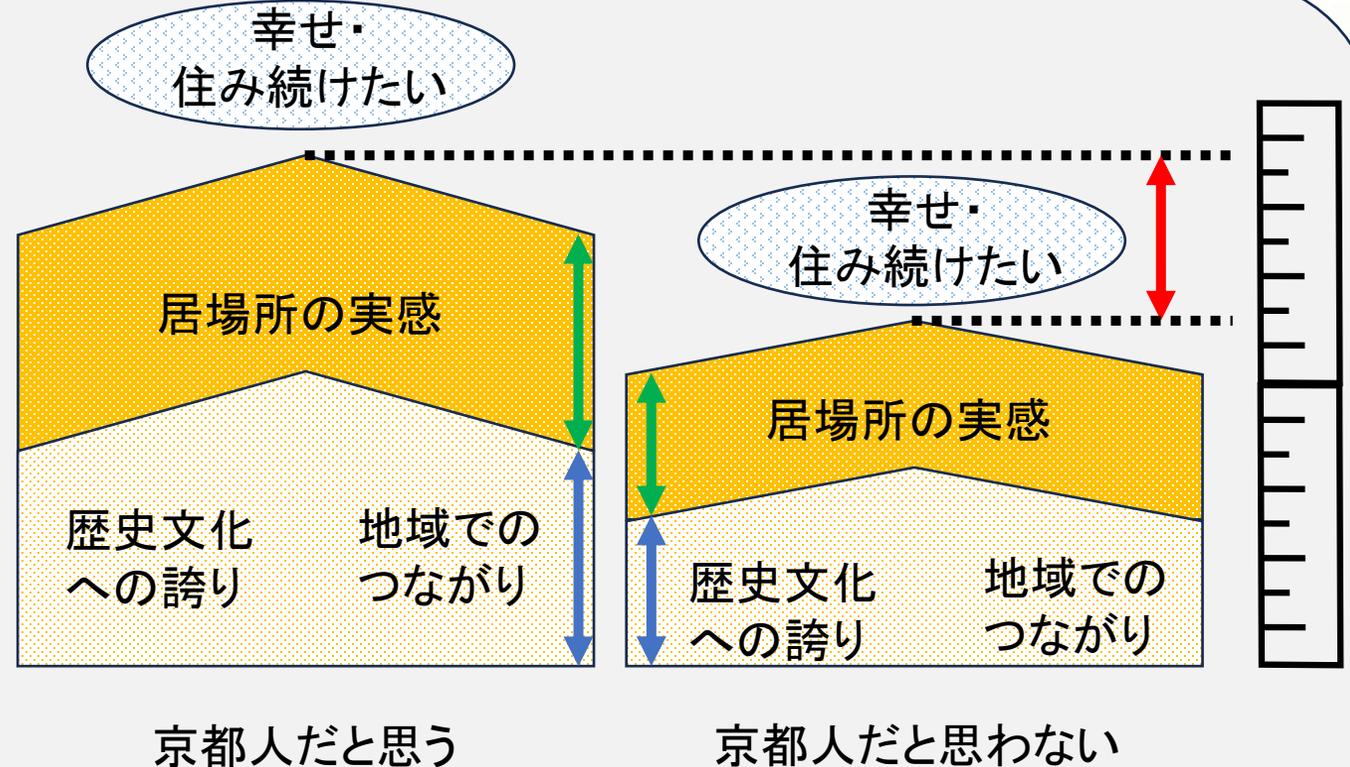
## 5 京都大学から京都市への提案

この調査結果から、「京都らしいウェルビーイング」を育むために、  
京都大学から次のようなアイデアをいただきました。

# 「京都人」と思うかどうかに関わらず 道筋は同じ

京都大学の分析によると・・・

- 先ほどの「幸せ」や「住み続けたい気持ち」につながる道筋は、「京都人」だと思っている人も、そうでない人も、基本的に同じでした。
- ただ、「京都人」だと思っている人は、最初から「歴史文化への誇り」や「地域でのつながり」、「居場所の実感」の値が高いので、結果的に幸せや住み続けたいと思う気持ちも高くなっている、と考えられます。



# 「京都らしいウェルビーイング」を育むために

つまり…

京都人だと思っていない人であっても、「歴史文化への誇り」と「地域でのつながり」が高まると、幸せや住み続けたいという気持ちが高まるということです。

京都には積み重ねてきた歴史や文化、自然など、教え・学ぶための豊かな資源があります。

この豊かな資源を活かし、「京都人」だと思える人・そう思わない人がつながりあい、みんなが幸せで住み続けたいと感じていただくことが、ウェルビーイングなまちにもつながるのではないのでしょうか。





そこで...

# 学び合いの輪をつくらう

## 京都の歴史や文化を 教える / 学ぶ

知識が深まり、  
誇りを感じるなど、  
更なる学びに  
つながります。

教える人



・ 継続的に学び・深める

・ (いずれ教える側に?)

京都への理解が  
深まり、誇りが育  
ちます。

学ぶ人

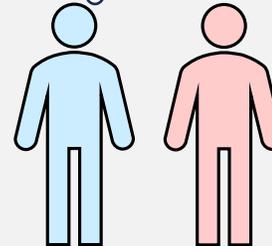


## つながりの創出

例えば ・地域の店での文化交流 ・歴史ガイドの養成  
・街歩きイベント ・お祭りへの参加促進 などを題材として

京都に  
住み続けたい

幸せ



ウェルビーイングなまち

# おわりに

今回初めて実施した市民アンケート調査の分析により、ここまでお伝えしてきたような関係性が導き出されました。

この因果関係をより明らかにしていくためには、継続して調査・分析を行うことが必要になります。

今回の分析結果を踏まえ、引き続き、京都大学との共同研究により、アンケート調査の設問項目を精査するなど、調査内容等について更に検討を深め、調査・分析を行っていきます。

**これからも京都市らしいウェルビーイングを  
育むための研究を進めていきます。**





※報告書の詳細版についてはこちらから



令和8年3月発行  
京都市総合企画局市長公室政策企画調整担当